

第 34 回

宮 沢 賢 治 賞
イーハトーブ賞

選考 宮沢賢治学会イーハトーブセンター

第34回宮沢賢治賞・イーハトーブ賞の選考について

《宮沢賢治賞》

宮沢賢治の詩の草稿を中心に、テキストの意味内容の変遷とその生涯における位置づけを精密に検討することによって、実証的な草稿研究と思想レベルの研究を新たな次元で統合した、著書『宮沢賢治 生成・転化する心象スケッチ』に対して。

すぎうら しずか
杉浦 静 様

《宮沢賢治賞奨励賞》

該当者なし

《イーハトーブ賞》

木版画家として長年「宮沢賢治」と「民俗芸能」をライフワークに、賢治の作品の版画を暮らしの中で使える「歌留多」や「蔵書票」という形で制作し、また各地の民俗芸能を独自に調査して、詩情あふれる作品に記録し続けてきた業績に対して。

いとう たくみ
伊藤 卓美 様

《イーハトーブ賞奨励賞》

宮沢賢治の作品や世界観に対する深い共感に基づいて、ペルシャ語翻訳による賢治の詩集と童話集を、いずれもイランで初めて刊行するとともに、長年にわたって日本とイランの相互理解と親善に貢献してきた功績に対して。

アスイエ・サベル・モガッダム 様

《イーハトーブ賞奨励賞》

宮沢賢治の童話や詩を題材として、温かく細密な絵画を数多く制作し、独自のアニメーション作品にも結実させる一方で、戦争やハンセン病など社会的に意義深いテーマでの制作活動にも、積極的に取り組んできた営為に対して。

かいづ けん
海津 研 様

選考経過および理由について

宮沢賢治学会イーハトーブセンター
賞選考委員長 浜垣 誠司

選考対象は学会員の推薦によるものであり、選考会議は2回行った。

《宮沢賢治賞》

選考対象は15件。3件が2次選考に残り、1件が本賞に選出された。奨励賞は該当者なしとなった。

本賞の杉浦静氏は、この30年以上の宮沢賢治研究の成果を、著書『宮沢賢治 生成・転化する心象スケッチ』に集大成し、2023年10月に刊行した。

本書の前半で杉浦氏は、「春と修羅 第二集」を中心に詩の草稿の状態とテキストの推敲過程を継時的に詳しく分析し、そこに賢治の宗教意識や社会意識、さらには世界観の変化を細かく読みとることによって、彼の生涯における思想の展開の道筋を、見事に浮き彫りにした。また、「歌稿」や「音楽用五線ノート稿」についても、草稿の実態や手入れ時期の推定をもとに独自の考察を行って、新たな仮説を提唱している。本書の後半では、賢治の作品におけるいくつかのトピックを深く掘り下げ、ここでも多くの新たな知見を示した。

本書を貫く実証的で緻密な研究手法は、賢治が遺した膨大な草稿を分析する上で、今後の規範ともなるものであり、宮沢賢治賞にふさわしい。

《イーハトーブ賞》

選考対象は14件。4件が二次選考に残り、1件が本賞に、2件が奨励賞に選出された。

本賞の伊藤卓美氏は、1967年に初の個展を開いて以来、「宮沢賢治」と「民俗芸能」をライフワークとして、長年にわたり第一線で木版画を制作している。

宮沢賢治に関しては、その作品の一場面を印象的なテキストとともに取り出し、「歌留多」や「蔵書票」という形にして、人々の日々の暮らしの中に生きる版画を制作してきた。これは、生活と芸術の一体化を目指した、賢治の理想にも通ずるものである。また、東北を中心に各地の民俗芸能を、独自に調査して制作した美しい版画作品は、伝承の貴重な記録ともなっている。最近では、「東京江戸百景」というテーマで、広重以来の浮世絵の伝統を現代に引き継ぐ創作も積み重ねている。

以上のように、優れた木版画によって宮沢賢治の作品世界を表現し、賢治も愛した民俗芸能を記録してきた業績は、イーハトーブ賞にふさわしい。

奨励賞のアスィエ・サベル・モガッダム氏は、イラン在住の日本文学研究者で、2回の日本留学の成果も踏まえて、2015年にペルシャ語翻訳版の宮沢賢治詩集を、2018年にはペルシャ語翻訳版の宮沢賢治童話集を、いずれもイランで初めて刊行した。サベル氏は、賢治の作品には「国境を越えて人の心から心へ伝わり、世界の人々をつなげる力がある」と評価し、またその作品世界における人間と自然との交流に、深く共感しつつ翻訳を行っている。またサベル氏は、在イラン日本国大使館附属日本人学校で長らく教壇に立ち、現地在住の日本人にペルシャ語を教えることで、日本とイランの相互理解に貢献し、2023年には在イラン日本国大使館の表彰も受けている。

このような優れた宮沢賢治作品の翻訳と、イランと日本の親善に資する功績は、イーハトーブ賞奨励賞にふさわしい。

同じく奨励賞の海津研氏は、身近な生命や自然をテーマとして、温かく細密な絵画やイラストを多数制作しており、とりわけ宮沢賢治の童話や詩を題材とした創作に、意欲的に取り組んでいる。中でも「なめとこ山の熊」や「ゼロ弾きのゴーシュ」など、人間と動物が心を通わせる情景の描写は魅力的で、「よだかの星」をモチーフとしたアニメーション「よだか」も、独特の質感がある。

一方、海津氏は沖縄のひめゆり平和祈念資料館で、「アニメ ひめゆり」の原画制作を担当し、最近の同館リニューアルの中心となる大作も制作した。2024年には、国立ハンセン病資料館での企画展示にも参加するなど、社会的な活動にも積極的に携わっている。

以上のような、宮沢賢治の作品に基づいた創作活動と、種々の社会的実践は、イーハトーブ賞奨励賞にふさわしい。

宮沢賢治学会イーハトーブセンター委員会構成

委員会等	氏名	都道府県	備考
参与	栗原 敦	東京	
代表理事	大沢 正善	宮城	
副代表理事(企画委員会)	大野 眞男	岩手	
副代表理事(賞選考委員会)	浜垣 誠司	京都	
賞選考委員会 (50音順)	青木 美保	広島	
	佐々木 勝也	岩手	
	田嶋 彩香	千葉	
	平澤 信一	東京	
	牧 千夏	長野	
企画委員会 (50音順)	北山 公路	岩手	
	小島 聡子	岩手	
	塩野 夕子	岩手	
	中野 由貴	兵庫	
	向山 三樹	山梨	
	森本 智子	兵庫	
編集委員会 (50音順)	遠藤 純	兵庫	
	◎大島 丈志	埼玉	
	構 大樹	徳島	
	渋谷 百合絵	千葉	
	中地 文	宮城	
	宮川 健郎	東京	
職で充てる理事(選任外)	生涯学習部長		すべての委員会に出席できる理事
	宮沢賢治記念館長		
	宮沢賢治イーハトーブ館長 (学会代表理事)		
監事	平賀 陽一郎	岩手	
	嶋 勝正	岩手	

◎：委員長

宮沢賢治賞 杉浦 静 (すぎうら しずか) 様

1952年生まれ 71歳 東京都練馬区在住

【学歴】

1975年3月	東京教育大学文学部文学科国語国文学専攻卒業
1977年3月	東京教育大学大学院文学研究科日本文学専攻修士課程修了

【職歴】

1977年4月	東京都立豊多摩高等学校教諭
1980年4月	佛教大学文学部助手 (82年より専任講師)
1985年4月	大妻女子大学専任講師 (87年より助教授、95年より教授)
2018年4月	大妻女子大学大学院人間文化研究科言語文化学専攻修士課程主任
2023年3月	大妻女子大学・同大学院定年退職

【主な活動等】

- 2000年9月 宮沢賢治学会イーハトーブセンター副代表理事 (2002年9月まで)
- 2008年9月 宮沢賢治学会イーハトーブセンター代表理事 (2012年9月まで)
- 2011年4月 宮沢賢治イーハトーブ館館長 (2012年9月まで)
- 2014年6月 花巻市宮沢賢治記念館展示リニューアル監修者 (2015年4月まで)

【主な業績等】

- 『宮沢賢治 明滅する春と修羅』(蒼丘書林、1993年) 岩手日報文学賞宮沢賢治賞受賞
- 『宮沢賢治 生成・転化する心象スケッチ』(文化資源社、2023年)

【主な編著】

- 『新校本宮澤賢治全集』全16巻、別巻1 (筑摩書房、1995年～2009年)
編纂委員 宮沢清六・天沢退二郎・入沢康夫・奥田弘・栗原敦・杉浦静
- 『宮沢賢治コレクション』全10巻 (筑摩書房、2016年～2018年)
監修 天沢退二郎・入沢康夫 編集 栗原敦・杉浦静
- 『図説 宮澤賢治』(筑摩書房、2011年)
編集 天沢退二郎・栗原敦・杉浦静
- 新編『宮沢賢治歌集』(蒼丘書林、2006年)
編集 栗原敦・杉浦静



イーハトーブ賞 伊藤 卓美 (いとう たくみ) 様

1946年生まれ 78歳 東京都世田谷区在住

【学歴】

1964年4月	法政大学経済学部入学
1968年3月	法政大学経済学部卒業

【職歴】

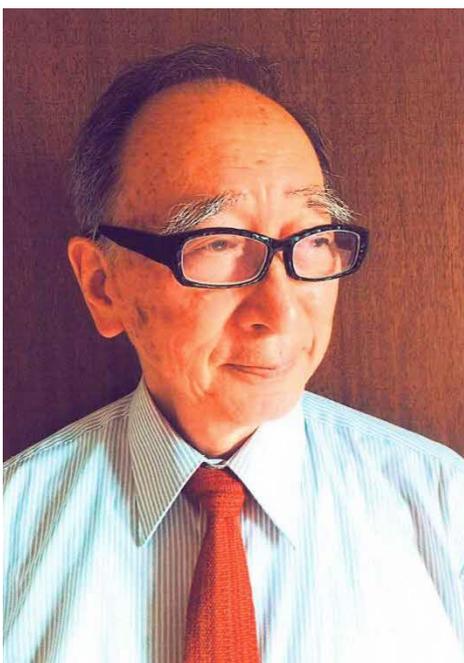
1968年4月	(株) 測機舎入社
1976年	(株) 測機舎退社

【主な業績等】

- 1979年 新宿小田急百貨店美術サロンで個展 (以後隔年 22 回展示)
- 1982年 「賢治絵葉書帳」私刊版画本を出版 (絵葉書を記念館で販売)
- 1983年 アメリカセーラム市ピーボディ博物館に民俗芸能関連作品 48 点收藏
- 1988年 日本版画会展「文部大臣奨励賞」受賞
- 2005年 アメリカ議会図書館に「権現様集合の図」收藏
- 2018年 花巻市宮沢賢治イーハトーブ館にて「宮沢賢治との出会い」展開催

【活動等】

- 1969年 宮沢賢治研究会に入会
- 1980年 日本版画会会員推挙
- 2002年 早稲田大学国際文化センター (国際教養学部) 講師 (工芸/木版画)
- 2004年 日本版画会会長就任 (2012 年会長辞任・無所属となる)
- 2006年 台湾台南大学、アメリカ DENISON 大学で木版画講座講師
- 2024年7月 現在 木版画家 (無所属) 早稲田大学エクステンションセンター講師



イーハトーブ賞奨励賞 アスイエ・サベル・モガッダム 様

1963年生まれ 61歳 イラン国テヘラン州在住

【学歴】

1995年～ 1999年	学士：テヘラン大学外国語学部日本語日本文学科（専攻：日本語日本文学科）
2008年～ 2010年	修士：テヘラン大学外国語学部日本語日本文学科（専攻：日本語教育）
2010年 7月～9月	文教大学共同研究員 宮沢賢治研究
2017年 7月～9月	文教大学共同研究員 宮沢賢治研究

【職歴】

1999年～ 2011年	テヘラン大学外国語学部 日本語の講師
2004年～ 2006年	テヘラン大学外国語学部日本語日本文学科 学科長
1999年～ 2011年	テヘラン大学公開講座日本語学科 学科長
2011年～ 2018年	在イラン日本国大使館附属日本人学校 教師
1999年～ 現在	在イラン日本国大使館の外交官へのペルシャ語教師

【主な著書】

国際交流基金 『みんなの日本語初級 I、II 翻訳・文法解説 ペルシャ語』

白井あつし『ペルシャの秘宝』翻訳（2007年）

加島祥造『求めない』翻訳（2008年）

宮沢賢治 『Mahe Asemane Sobh』翻訳（2015年）

宮沢賢治 『Gole Bad Larzan(Okinagusa)』翻訳（2018年）

「イランにおける賢治文学の受容と今後の可能性について」

『賢治学』第4輯（岩手大学宮澤賢治センター編、2017年）

「宮沢賢治作品のペルシャ語訳における諸課題」

『言語と文化』（文教大学院言語文化研究科附属言語文化研究所、2018年）

村上春樹『街とその不確かな壁』翻訳（2024年）

【業績等】

日本国際交流基金の短期研修の終了証書（2002年）

日本国際交流基金の海外日本語教師上級研修の終了証書（2005年）

テヘラン大学で宮沢賢治入門セミナーを開催（2011年）

在イラン日本国大使館主催弁論大会入賞（1998年）

在イラン日本国大使館から「表彰状」（2023年）



イーハトーブ賞奨励賞 海津 研 (かいづ けん) 様

1977年生まれ 47歳 千葉県我孫子市在住

【学歴】

2001年3月	東京芸術大学美術学部デザイン科卒業
2004年3月	東京芸術大学大学院美術研究科デザイン専攻修了

【職歴】

2006年～ 2009年	コマ撮りアニメスタジオにてアルバイトスタッフ
2024年	現在、画家・イラストレーターとして活動

【主な作品、業績等】

- 1999年 テレビ東京「たけしの誰でもピカソ」アートバトル グランドチャンピオン
- 2012年 ひめゆり平和祈念資料館・制作「アニメひめゆり」のイラストを手がける (完成)
- 2021年 ひめゆり平和祈念資料館・展示用イラストの制作 (完成)

